

ミライシード AWARD 2023 エントリー用紙

大阪府茨木市立西中学校 英語科教諭 英語科主任 情報化教育担当チーフ 外村 英樹

①貴自治体・貴校で目指している目標（ビジョン）

本市では、令和2年～6年度までの学校教育計画「茨木っ子プラン ネクスト5.0 ～一人も見捨てへん教育～」の中の最重点の1つに、「これからの社会を生きる力を育む」を掲げています。ICTの分野でいえば、「変化が激しく予測困難な社会を生きていく子どもたちに、『AIや情報を使いこなし、ネットやスマホとうまく付き合う力』と、『新しい価値を創造する、多様な他者とつながり協同するなど、人間ならではの能力』を育むこと」を目指しています。その重点目標をもとに、本校でも「非認知能力の育成を根底的な考えとして、それらが高められる生徒の育成」を教育目標としている。また、OECD Education2030 プロジェクトのビジョンから、「これからの中学校教育はどうあればいいのか」も考えていきたいと思っています。

②目標（ビジョン）に向けたこれまでの取り組み・今後の取り組み

本校では、本市の教育目標および学校の教育目標に沿って様々な校務分掌の取り組みやICTを活用した授業実践が行われています。校務面では、本市がスローガンとして掲げている「一人も見捨てへん教育」に沿って、令和2年の学校休校時にはオンライン授業の配信を行い、現在においても、欠席生徒・長期欠席生徒に向けてのオンライン授業配信、授業プリントや学級通信などの配信を通して一人ひとりに必ず届ける取り組みを行っています。今後は、教職員の労働時間問題および学校経費の解決策の一つとして、ペーパーレス化や学校情報のデジタル配信に取り組んでいきたいと思っています。また、教育面においては、非認知能力の育成と向上を目指し、ミライシードのR-PDCAや様々なアンケートから生徒の意見や考えを視覚化、自分の考えを広めたり、深めたりする学習指導に取り組んでいきたいと思っています。

③お取り組みの中で見えてきた変化（先生のご指導の変化や児童・生徒の学びの変化など）

今まで授業や様々なテストでの結果を分析していて、本校生徒の「英語」の課題として、自分の自由な意見や考えを持ち、その考えたことを他者に向けて英語を使って発表する・交流する等の表現力が課題であると感じていました。しかし、実際にどの程度の課題なのか、何が原因で難しいと感じているのかが、テストの点数等の数値として図れないでいました。その時に本市での学校情報化担当者会の研修（Benesseによる研修）で、ミライシードで実施

できる R-PDCA の存在を知りました。その研修を受けて、早速授業で取り入れてみようと、カルテを作成し、その結果を受けて授業実践をしてみようと決めました。教師側の「こう教科指導していこう」、「このような力をつけてやりたい」といった思いや考えで一方的な授業をするのではなく、生徒それぞれの声を聞き、見えない力を視覚化して把握し、強みは何なのか、課題は何なのか、その課題に対してどのような力（自信やスキル）をつけさせる授業をするべきなのかと、自分自身の教科指導の新しい方向性を決めることができました。「英語」は他者や自分自身とのコミュニケーションがあって成立するものであり、それが英語を学習する必要性だと考えています。そのことに R-PDCA と出会い、改めて気づかされました。

1 回目の調査で、本校生徒の課題はカルテの項目にあった自己表現力・意見活用力・多様な意見を出す力・意見交流力・理由をつける力であるとわかりました。予想通りでしたが、実際に数値として出ると、目に見えてわかりました。2 回目の調査に向けて、ミライシードのオクリンクを活用して、自分自身の意見を、理由をつけて出し、グループでその意見交流をし、全体で発表し、他グループの意見と比較してどう感じたのかといった授業を実践しました。生徒の取り組みの様子としては、どの生徒も教師の想像していた以上に、自分自身と向き合い、生き生きと交流する姿、自身の考えを再構築していこうとする姿がありました。自分の考えを出し、他者と比較したり、交流し、改めて自分自身と向き合う、そのようなアクティブラーニングが目指す学習サイクルが授業で生まれました。その様子が生き生きとした授業の様子だけではなく、2 回目の調査で数値としても変化が見られました。これからは 2 学期に行った授業と調査を受けて、3 学期に実施する 3 回目の調査に向けて、また生徒に寄り添った、課題を成果に変えられる授業を考えていきたいと思います。生徒の見えない力や考えていることを「視覚化」する。そこから出た課題を解決できる授業、強みを生かしていく授業を実践できるツールとして、生徒にも教師にも変化が起こせるものだと思います。

④お取り組みの中でのミライシードの活用画面・活用機能

アクティブラーニング行動調査

● 1回目 ● 2回目 ● 3回目

